

Saeki Yuzo: Emerging from the Urban Landscape

世界のコレクション

大阪中之島美術館が誇る

開館1周年記念
特別展

佐伯祐三



佐伯祐三 『黄色いレストラン』 1928年 大阪中之島美術館

2023.4.15. - 6.25.



大阪中之島美術館
NAKANOSHIMA MUSEUM OF ART, OSAKA

〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-1 <https://nakka-art.jp>
問い合わせ: 大阪市総合コールセンター 06-4301-7285 (年中無休/8:00-21:00)

開場時間: 10:00-17:00 (入場は16:30まで)

休館日: 月曜日 (5月1日を除く)

会場: 大阪中之島美術館 5階展示室

主催: 大阪中之島美術館、読売新聞社

協賛: 岩谷産業、きんでん、清水建設、
パナソニック ホールディングス、非破壊検査

佐伯展

検索

展覧会公式ホームページ

<https://saeki2023.jp>

自画像としての風景

Nakanoshima Museum of Art, Osaka

およそ100年前、「大阪」「東京」「パリ」の3つの街に生き、短くも鮮烈な生涯を終えた画家、佐伯祐三(1898-1928)。1924年に初めてパリに渡ってからわずか4年余りの本格的画業の中で、都市の風景を題材とする独自の様式に達しました。特に、一時帰国を挟んだ後の2回目の滞仏期に到達した、繊細で踊るような線描による一連のパリ風景は、画家の代名詞とされ、その比類ない個性は今でも多くの人を魅了し続けています。私たちは、佐伯の絵画に向き合う時、風景に対峙する画家の眼、筆を走らせる画家の身体を強く想起させられます。そして、描かれた街並の中に、画家の内面や深い精神性を感じ取ります。それゆえ作品はしばしば、画家自身を映したもの

佐伯祐三は初期に多くの自画像を描いています。ペンや鉛筆によるスケッチ、東京美術学校卒業制作のほか、1924年の劇的な画風の転換を示す、『立てる自画像』を紹介します。

2年間のパリ滞在を経て、佐伯は1926年3月に日本に戻ります。それから約1年半の一時帰国時代、集中的に取り組んだ画題が「下落合風景」と「滞船」でした。パリとは異なる風景に向き合う中で、画家は電柱や帆柱など、中空に伸びる線を見出しています。佐伯が日本の風景の何を切り取り、どう描いたか。「下落合風景」と「滞船」のシリーズを充実した点数で紹介し、独自の視点と表現に迫ります。



佐伯祐三《下落合風景》1926年頃 和歌県立近代美術館



佐伯祐三《滞船》1926年頃 ENEOS株式会社

——自画像にたとえられます。

本展では、佐伯が描いた「大阪」「東京」「パリ」の3つの街に注目し、画家が自らの表現を獲得する過程に迫ります。最大級の質と量を誇る大阪中之島美術館の佐伯祐三コレクションを中心に、画家の代表作が一堂に集結。展覧会初出品となる作品も出展されます。大阪では15年ぶりの回顧展となる本展は、佐伯芸術の魅力を再発見する機会となることでしょう。



佐伯祐三《立てる自画像》1924年 大阪中之島美術館

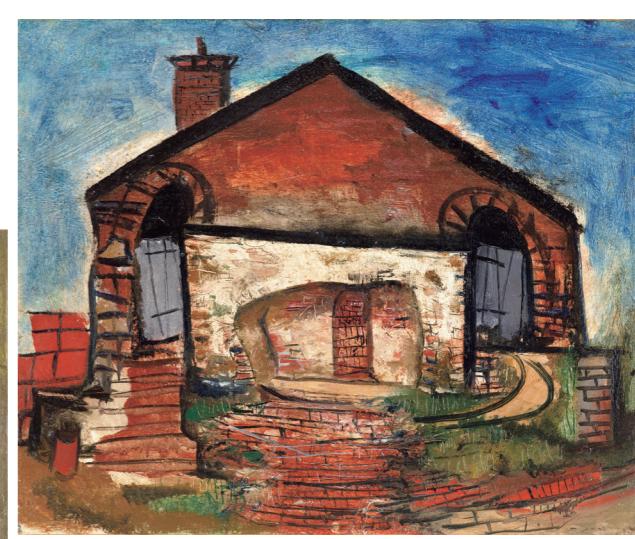
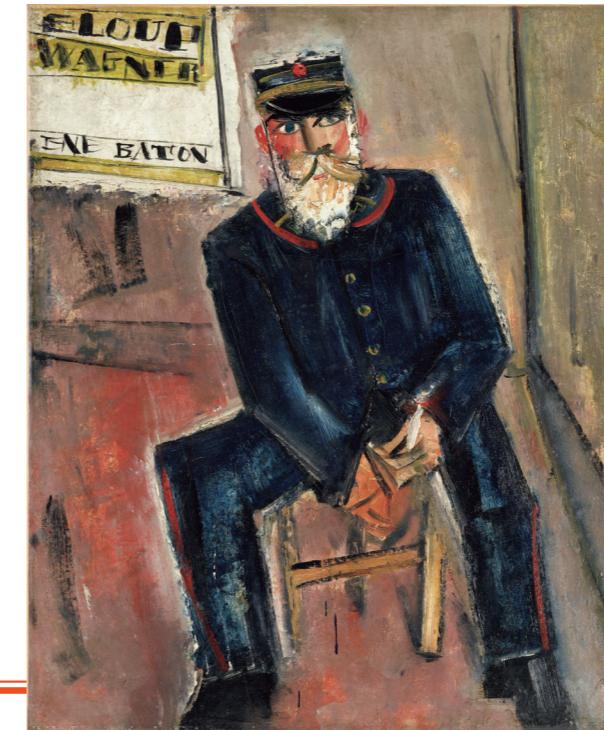
プロローグ——自画像

大阪、東京、パリ

命を捧げた洋画家

街を描くことに
エピローグ

1928年3月、佐伯が病臥する前に描いた、絶筆に近い作品『郵便配達夫』、『郵便配達夫(半身)』、『ロシアの少女』、『黄色いレストラン』、『扉』をすべて展示します。3月末に咯血した佐伯は、その後筆をとることができず、8月16日に亡くなりました。



佐伯祐三《煉瓦焼》1928年 大阪中之島美術館

1928年2月、佐伯はパリから電車で1時間ほどの小さな村、ヴィリエ=シュル=モランに滞在し、新たな造形を模索しました。モランでの作品には力強く太い線と構築的な構図が復活します。

寒さの厳しい中での制作は佐伯の体力を確実に奪っていき、ここが最後にまとった数の作品を描いた場所となりました。

佐伯祐三《郵便配達夫》1928年 大阪中之島美術館

第2章——パリ

線のパリ

1925年、佐伯はパリの下町の店先を題材に、壁のパリ重厚な石壁の質感を厚塗りの絵具で表現する独自の作風に到達しました。『コルドヌリ(靴屋)』などのこの時期の代表作をはじめ、圧倒的な存在感を放つ壁面の数々、その美しく複雑なマチエール(絵肌)をご覧いただきます。



佐伯祐三《ガス灯と広告》1927年 東京国立近代美術館



佐伯祐三《広告(ヴェルダン)》1927年 大原美術館

第3章——ヴィリエ=シュル=モラン

佐伯祐三《コルドヌリ(靴屋)》1925年 石橋財团アーティゾン美術館



140点超の作品を公開

1



2

3

佐伯祐三の代表作が一堂に集結

30歳で夭折した佐伯祐三が、**本格的に画業に取り組んだのはわずか4年余りです。**

本展では、その短い画業で佐伯祐三が残した作品から、選りすぐりの代表作を一堂に公開。約140点により佐伯作品の魅力を紹介します。

風景を切り口に生涯を通覧。

東京、大阪を描いた作品も充実

佐伯が主に描いたのは、自身が生きる街を題材とした風景画です。**本展では特に日本で描かれた東京(下落合)、大阪(滞船)の作品を充実させて紹介。**佐伯が発見した風景を、パリはもとより、東京、大阪というそれぞれの街にからめて鑑賞し、佐伯芸術が花開く過程を一望するまたとない機会を提供します。

関連イベント

*詳しくは公式ホームページをご覧ください。

○講演会

2023年 4月15日(土) 「大阪中之島美術館の佐伯祐三コレクション」
登壇者:菅谷 富夫(大阪中之島美術館館長)

2023年 6月3日(土) 「都市風景画家としての佐伯祐三」
登壇者:高柳 有紀子(大阪中之島美術館主任学芸員)

*いずれも14:00-15:30(開場13:30)

*整理券を配布いたします(13:00から配布予定)

*会場:大阪中之島美術館1階ホール

*定員:150名(先着順、事前申込不要)

*聴講無料。ただし本展の観覧券(半券可)が必要。

音声ガイド

佐伯祐三と同じ北野高校(大阪)出身の**有働由美子さんが、音声ガイドナビゲーターに決定!**

「大阪」「東京」「パリ」の3つの街に暮らした佐伯。自身が生きる街をテーマに、亡くなる直前まで風景画を制作した佐伯の画業の軌跡を、エピソードとともにたどります。

[貸出料金] お一人様1台600円(税込)

*アプリ配信版650円(税込)

[収録時間] 約30分



料金(税込)	一般	高大生	小中生
当日	1,800円	1,500円	500円
前売・団体	1,600円	1,300円	300円

展覧会公式HPは
こちら ►►►►

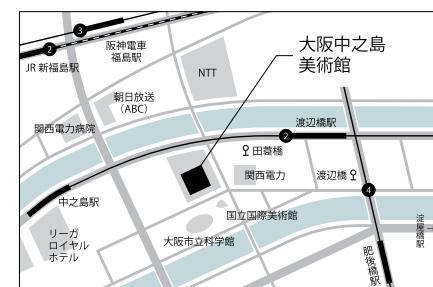


[電車] ◎京阪一中之島線 渡辺橋駅(2番出口)より南西へ徒歩約5分 ◎Osaka Metro一四つ橋線 肥後橋駅(4番出口)より西へ徒歩約10分 ◎JR一大阪環状線 福島駅／東西線 新福島駅(2番出口)より南へ徒歩約10分 ◎阪神一福島駅(3番出口)より南へ徒歩約10分

[バス] ◎大阪シティバス—JR大阪駅前より53号・75号系統で「田養橋」下車、南西へ徒歩約2分 ◎※お帰りのJR大阪駅方面最寄バス停は「渡辺橋」になります。

[駐車場] ◎有料駐車場あり(割引サービスはございません)。

*詳細は大阪中之島美術館公式ホームページをご覧ください。



〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-1 <https://nakka-art.jp>

大阪中之島美術館

AKANOSHIMA MUSEUM OF ART, OSAKA

*前売券は4月14日(金)まで販売。*企画チケットについては、公式ホームページにてお知らせします。*団体は20名以上。20名以上の団体鑑賞をご希望の場合は事前に大阪中之島美術館公式ホームページから団体受付フォームにてお問い合わせください。*未就学児無料。*学校団体の場合はご来場の4週間前までに大阪中之島美術館公式ホームページの学校団体見学のご案内からお申込みください。*障がい者手帳等をお持ちの方(介護者1名を含む)は当日料金の半額(要証明)。*一般以外の料金で観覧される方は証明できるものを当日ご提示ください。*本展は、大阪市内在住の65歳以上の方も一般料金が必要です。*展示室内が混雑した場合は、入場を制限することがあります。*災害などにより臨時で休館となる場合があります。*最新情報は本展公式ホームページ等をご確認ください。*【相互割引】本展観覧券(半券可)の提示で、4階で開催される「デザインに恋したアート♡アートに嫉妬したデザイン」(2023年4月15日-6月18日)の当日券を100円引きでご購入いただけます。1枚につき1名様有効。チケット購入後の割引および他の割引との併用は不可。